

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 28-007

PDCA	事務事業名	生涯学習推進事業	部課等名	教育部 生涯学習課 生涯学習担当	担当	竹内	
					内線等	237241	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち					
		節： 第2節 生涯学習の推進					
		基本施策： 1. 生涯学習					
		単位施策： (2) 生涯学習支援のしくみづくり					
	根拠法令等	第2次半田市生涯学習推進計画(はんだ学びプラン)					
	対象・目的	市民一人ひとりが、いつでも、どこでも、だれもが楽しんで学習に取り組むことができ、さらに「ひとづくり」「まちづくり」につながる活動が広がるよう学習活動の支援や環境整備を推進する。					
	目的を達成するための手段・活動内容	・市民が学習成果を生かし、市民同士で学び教え合う機会を設けるため、「市民企画講座」を継続的に開催する。 ・社会福祉協議会やNPOなどと協力し、市民企画の講座開催を支援し、充実させる。 ・ゲストティーチャー(市民ボランティア講師)研修会など、ゲストティーチャーのフォローアップを行い、ゲストティーチャーの資質向上を図ることで活躍の場を増やしていく。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		①講座受講者数	4,164	4,348	4,131	人	
		②講座開催回数	287	294	287	回	
		③					
		事業費	1,011	807	809	千円	
		人件費	5,454	5,035	3,726	千円	
		総事業費	6,465	5,842	4,535	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
	①講座参加者1人当たりの事業コスト	1,552	1,343	1,097	円/人		
	②						
	③						
	成 果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		①市民企画講座数	実績値	64	61	60	件
			目標値	95	95	95	
②ゲストティチャー登録件数		実績値	191	190	183	件	
		目標値	180	190	190		
③		実績値					
目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ない	※対象・手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない	
	事業の評価・課題	C					
		市民一人ひとりが、いつでも、どこでも、だれもが楽しんで学習に取り組むことができ、さらに「ひとづくり」「まちづくり」につながる活動が広がるよう学習活動の支援や環境整備をし、ゲストティーチャー制度の活用促進を図ったが、大きな変化はなかった。ゲストティーチャー(市民ボランティア講師)研修会を開催し、ゲストティーチャーのフォローアップを行い、ゲストティーチャーの資質向上を図ることができた。今後もゲストティーチャーのフォローアップをしつつ、市民が活用しやすいゲストティーチャー制度を検討していく必要がある。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	市民が目にしやすく、気軽に連絡をとることができるように「マナナビ」としてゲストティーチャー活動紹介リストを作成し、ゲストティーチャー制度の活性化を目指す。「学んだ人」が「教える人」になれるよう、受講者のフォローや研修も検討していく。				
		令和2年度の目標	成果指標	目標値	単位		
			①市民企画講座数	50	件		
			②ゲストティチャー登録件数	190	件		

改善推進